



デザインを身近に感じてきた幼少期

母がデザインに関わる仕事に就いていて、子供の頃から街で母が作ったポスターを目にする機会がありました。漠然と面白そうだな、私も同じようにデザインに関わりたいなと思っていました。高校はデザインに特化した高校へ進学しビジュアルデザイン科に所属しました。授業でプロダクトデザインやインテリアデザインなどを経験した中でビジュアルデザインが一番楽しいと感じました。

デッサンは構成と時間配分がカギ

地元の大阪とは違う環境でチャレンジしてみたい思いがあり、大阪府外の国公立でデザインが学べる大学を探していました。高校の先輩で当時富山大学の芸術文化学部に進学した先輩がいて、帰省したタイミングで大学生活について話をしてくれました。入試方法なども調べ、私に合っていると感じました。デッサンの対策で高校3年から画塾に週2回通いました。構成を重視し、時間配分を身体に叩き込みました。

自分の制作物が世に出る経験ができる

1年次は五福に住み、教養科目とアルバイトメインの生活を送りました。大学生らしい生活を送る反面、早くデザインをやりたいという気持ちが大きくなりました。1年次の後期に芸術文化学部のデザインの先生がオムニバス方式で講義する授業がありました。岡本知久先生の授業の回で、ゼミの説明がありました。地域の企業や行政から案件をいただき、学生が主体的に取り組む機会が多くあると聞きました。活動内容が私のやりたいことに一番近いと感じました。2年次から高岡に引っ越し、岡本先生のゼミに所属し活動しています。取り組む案件のクライアントとのやり取りは学生が自分で行います。デザインを仕事にするうえで必要な、メールの作法や打ち合わせの進め方なども身に付くところにも魅力を感じています。

ゼミ活動で県庁公園のデザインが採択

岡本先生のゼミに所属して間もない2年次の春、富山県庁前にある故障中の花時計をリニューアルするというところで、岡本ゼミにデザインの依頼をいただきました。ミーティングやプレゼンを重ね、最終案をコンペという形でプレゼンしました。富山駅から総曲輪までの「通り道」になっている場所を、「新しい富山の顔」へ変えることを目標にこれまで進めてきました。私の案は、花壇に登るところに階段とスロープを設けて、ベビーカーや車いすの人にも利用してもらえるように工夫しました。投票の結果、私のデザインが採択されることが決まりました。「みんなが集まれる街の中心部にしたい」という思いが、審査員の方々に評価していただけたのだなと思っています。



お世話になった高校の先生へ

受験期にはデッサンや面接練習など、親身にご指導いただき本当にありがとうございました。高校でデザインの楽しさを学んだことが、今の活動につながっています。先生方に成長した姿をお見せできるよう、これからも努力していきます。